

JIM-NET 年次報告書

(日本イラク医療支援ネットワーク)



Annual Report

2018





ごあいさつ

2018年度の決算が通常総会で承認されました。村山文彦監事に、決算前7日間ほどJIM-NET事務所に詰めて頂き、帳簿類を細かく確認をしてもらいました。経営状態は非常に安定していることがわかりました。

2018年は外務省の支援をいただいて、新しいJIM-NETハウス1ができました。とても大きなことだと思います。イラク中から注目をされています。外務省の評価も高く、2019年にはスレイマニアにJIM-NETハウス2を造る計画もしています。

理事の井下ドクターは「貧困や環境の問題で、イラクでは治療放棄が行われ、子どもが亡くなっていくという現実を減らすために、2つのJIM-NETハウスがうまく運営され、ここで生活の相談や治療に対する意識付けなどが行われるようになることが期待される」と述べています。

2018年度はチョコ募金も15万個、皆様のお陰でスムーズに達成することができました。

2019年度は事務局の機能アップを図るために、増員しながら働き方改革をおこなっていきます。福島支援も風化しないよう、丁寧に効果的な活動をしている小さな団体を、細く長く支援を続けていこうと考えています。2019年9月から10月にかけて、有名な日本のミュージシャンがダラシャ克蘭難民キャンプとJIM-NETハウス1でコンサートをする計画が今、立てられています。11月2日は、東京でチョコ募金のキックオフイベントが行われます。今年もビッグなアーティストが、参加を計画してくれています。

JIM-NETは2019年、発足してちょうど15周年を迎えます。JIM-NETを応援してくださる皆さんと、15周年のお祝いもできるように、いま計画を立てております。2019年度の夢を語りながら、2018年度に出来たことを詳しくご報告いたします。



代表理事 鎌田 實

組織体制 (2018年3月現在)

【役員】

代表 鎌田 實
副代表兼事務局長 佐藤真紀
理事 池住義憲
理事 井下俊
理事 今井高樹
理事 鎌仲ひとみ
理事 平野裕二
監事 村山文彦

【スタッフ】

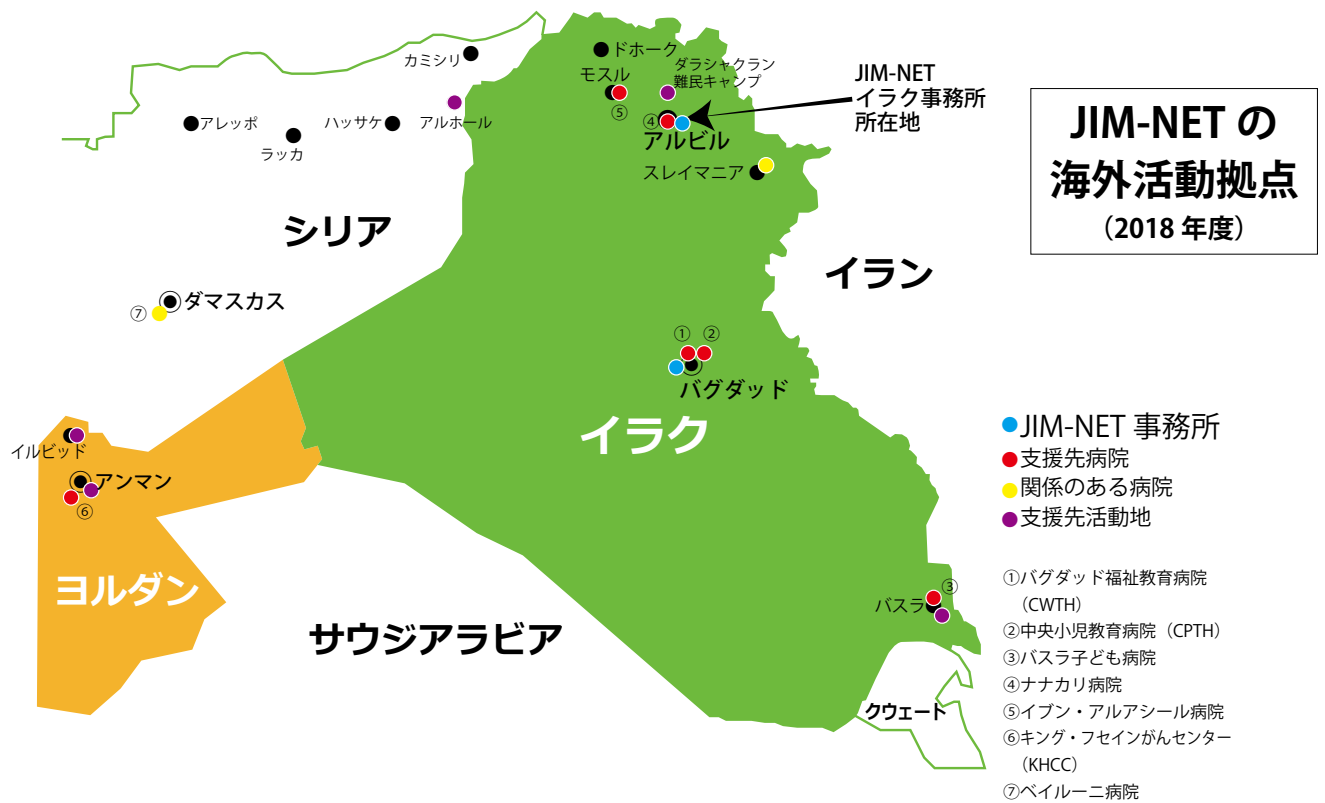
東京事務所スタッフ：7名 アルビル事務所スタッフ：1名
現地スタッフ：アルビル7名 バグダッド2名 バスラ3名

【サポーター】

ラナサポーター*：464名 一般サポーター**：880名

*ラナサポーター：年会費1万円。うち3千円が会報誌の送付やイベント参加費免除等のサービスと、JIM-NETの運営に充てられるほか、7千円が子どもたちの医療支援費に充当されます。

**一般サポーター：年会費3千円。会報誌の送付やイベント参加費免除等のサービスと、JIM-NETの運営に充当されます。



JIM-NET のあゆみ

1990 年代半ば、イラクの子どもたちの間で、がん・白血病の発症率が急激に増加し始めました。1991 年の湾岸戦争時に米軍が使用した劣化ウラン弾の放射能の影響だと思われます。しかし、湾岸戦争後の経済制裁による抗がん剤や医療機器の輸入制限のため、適切な治療が受けられずに、多くの子どもたちが助かるはずの命を失っていきました。

2003 年のイラク戦争で、米軍は再び劣化ウラン弾を使用しました。イラクの病院は破壊され、疲弊し、保健行政も機能不全に陥り、増え続ける小児がん・白血病の子どもたちにとって危機的状況でした。2004 年 6 月、来日したバスラ産科小児科病院のジャンン医師と日本の支援者たちの間で、子どもたちの窮状を救うための話し合いがもたれました。そして、より効率的で継続的な支援体制の確立をめざし、NGO、市民グループ、日本とイラクの医師たちが「日本イラク医療支援ネットワーク (JIM-NET)」を立ち上げました。以降、任意団体として 7 年あまり活動した後、2012 年 2 月 1 日、特定非営利活動法人 (NPO 法人) となりました。

2011 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災の直後には、

宮城県石巻市を中心に医療支援や仮設風呂の提供を行なうとともに、地震と津波で福島第一原子力発電所の事故が起きた福島県にて、放射能の被害を最小限に留めるべく除染や保養の支援を継続して行っています。また、2012 年 4 月からは、内戦が激化したシリアから大量の難民が発生したことを受け、イラクとヨルダンにて緊急支援を開始しました。

2016 年度にはイラク・アルビルに「小児がん総合支援施設 (通称：JIM-NET ハウス)」を開設し、2018 年度にはイラクでは初となる小児がん総合支援施設をアルビルのナナカリ病院敷地内に建設しました。また IS による爆撃などで大きな被害を受けたモスルへの緊急医薬品支援やイラク国内避難民への緊急支援も継続しています。

JIM-NET は、イラクの小児がんの子どもたちが自国できちんと治療を受けられるようになり、先進国並みの生存率となるように支援を続けます。福島での活動も継続し、放射能汚染から人々を護る活動を行う団体への支援を実施しています。また、シリア難民支援とイラク国内避難民支援にも継続して取り組んでいきます。

JIM-NET の活動「3つの柱」





イラク小児がん支援

イラクでは5月に全土で国政選挙が実施され、10月25日にアーデル・アブドル・マハディが新首相として選ばれました。しかし、内閣の要となる防衛大臣、内務大臣、法務大臣の職は（2018年末現在）未だに決まっています。クルド自治政府は、9月30日に議会選挙を実施。与党のKDPが票を伸ばしました。

モスルは復興が遅れており、治安も不安定な状態が続いています。バグダッドの一般市民の生活レベルは以前よりずいぶん改善され、モールなどの娯楽施設や、サッカー場なども建設されています。

一方バスラでは、水の汚染問題で健康被害が及び、劣悪な公共サービスに対するデモがたびたび発生しました。自治体の庁舎や政治団体の事務所に放火される事件も発生し、夜間外出禁止令が発出されました。



ナナカリ病院で抗がん剤治療を受ける子ども

そのような状況ではありましたが、JIM-NETは、中央政府内の病院へはほぼ予定通り医薬品の支援を行なうことができました。また、アルビルには日本人看護師が派遣され、医療面で充実した1年となり、ナナカリ病院の敷地内には念願のJIM-NETハウス1が完成しました。

こんな活動をしました

▶ 医薬品支援・消耗品支援

4地域の小児がん専門病院に抗癌剤などの医薬品を支援しました。

バグダッド	19,000 米ドル
バスラ	111,824 米ドル
アルビル	42,000 米ドル
モスル	23,467 米ドル

* 医薬品は、子どもの平和と生存のための童話館基金様、株式会社カタログハウス様、生活協同組合パルシステム東京様、連合「愛のカンパ」様よりご支援いただきました。

▶ 研修事業

看護師、ソーシャルワーカー、病院清掃スタッフを対象に計5回の研修を実施しました。

看護師研修では、看護記録の導入や化学療法についてなどアルビル保健局とも協力し合い実施しました。また、イラク全土9つの病院の看護師を対象に、エジプトの57357病院で研修を行いました。

参加者：125名

▶ JIM-NET ハウス

がんの子どもたちの家族のための総合支援施設の運営は2年目を迎えました。抗がん剤や治療に関し抱えている不安などを相談する場所として機能し、JIM-NETハウスの近くにはモートルの2部屋を貸し切り、遠方からの患者家族が宿泊できるように対応しました。

3期計画の本事業は2017年1月より、外務省日本NGO連携無償資金協力より助成を受け実施し、2期目にあたる今年度は病院の敷地内に建物を建設しました。

宿泊施設：延べ1745名利用

JIM-NETハウス：年間で121名利用



医療従事者への能力向上を図る研修を実施

▶「地域で支える」がんの子どもたちへの取り組み

★学校での啓発活動・・・「がんはうつる」と誤解する子どもたちも多く、15歳前後の生徒に対して、アルビル保健局の協力のもと、「がん」についてや「がんの子どもとどう接したらいいか」を考える講義を行いました。

★青少年活動・・・闘病中やサバイバーの子どもを対象に音楽教室やアートワークショップを実施しました。

★ピアサポートの導入・・・医師から病気を告げられてからの苦労や悩みについて、参加者同士で話し合いました。感情を共有し、同じ境遇を持つ家族同士での交流の機会となりました。



▶貧困患者支援

アルビルでは患者情報をデジタルデータ化し、ソフトによる管理へと移行しました。

アルビル、モスル、バグダッド、バスラで延べ363名に医薬品の支援を実施しました。



感染症予防のためのパンフレットを作成

▶JIM-NET 会議の開催

2月23日から2日間、JIM-NET 会議がアルビルで開催されました。今年度は医師に加え、エジプトで研修を受けた看護師もJIM-NET 会議へ参加し、総勢40名を超える会議となりました。日本からはJIM-NET 理事の井下俊医師、信州大学のリカー・アルカザイル医師が出席しました。

毎年評価を行っている ALL（急性リンパ性白血病）に関しては、治療成績は一部の地域では医療先進国と同等の成績を上げているものの、全体の6割程度はまだまだ世界標準には及ばない結果が続いています。

★IS とがんに苦しんだファーティマとその家族

2016年12月18日、IS（イスラム国）のコントロール下にあったモスルから必死の覚悟で逃げ出したファーティマ（当時2歳半）とその一家は極寒の中、難民キャンプに辿り着きました。しかし、ファーティマの祖父だけは家を守るためにモスルに残り、翌日12月19日ISの爆撃により亡くなりました。難民キャンプで生活を始め、ファーティマの体調が悪化し始めたのはその数か月後のことでした。十分な診察を受けることが出来ず、アルビルのナナカリ病院で白血病の診断が出たのが2018年1月のことでした。一家は治療のためにアルビル郊外に引っ越してきました。

JIM-NET スタッフがファーティマと彼女の父親に初めて会ったのは2月、父親は途方に暮れていました。「私たちは本当に何も持っていないんだ、10日間何も買うことができない」途方に暮れた表情は今も脳裏に焼き付いています。すぐさま家を訪問したところ、家のオーナーが無料で貸してくれているというセメント工場の作業員の休憩所として使っ



最期は自己呼吸が困難となったファーティマ

ていた2部屋に一家14人で生活していました。緊急支援として生活物資と抗がん剤購入費用、当面の病院までの交通費の支援を行いました。

その後もファーティマへの支援を継続していましたが、2019年6月この世を去りました。ISによって生活を奪われ、がんに苦しんだファーティマとその一家。IS掃討作戦が終わっても今なお、モスルで治療が受けられない子どもたちは後を絶ちません。

JIM-NET ハウス を見てみよう!

ファミリールーム



アートルーム



プレイルーム



クラスルーム



JIM-NETハウス

キッチン



JIM-NETスタッフルーム



病院での治療中、小児がん患者と家族の心身が休まる場所を作りたいー
そんな願いが叶い、2019年3月に「JIM-NETハウス」が完成しました。カラフルな建物は、子どもたちの笑顔を象徴しています。
勉強はもちろん、身体を動かして遊べる部屋も備えており、家族とともに安心して過ごせる場所としてスタートしました。

食堂兼カフェ





緊急支援

政府側と反政府側の対立で紛争へと発展したシリアでは、他国の介入やISの台頭により情勢が悪化し、シリア紛争は8年目に突入しました。2018年9月には反政府側の最後の拠点となったイドリブの総攻撃があるかと思われましたが、トルコ、シリア、イラン、ロシアの協議により緩衝地帯が設けられ、大規模な戦闘は回避されました。また、閉鎖されていたシリアとヨルダンの国境の主要交通路は、同年9月に再び開通しましたが、障害を持つシリア人の多くは未だヨルダン国内に留まっています。

そのような状況下で、ヨルダンではシリア支援団体「サダーカ」と共同で、SEMAの運営するイルビッドのリハビリセンターでの障害者支援を行いました。イラク国内のダラシャラン・シリア難民キャンプでは、昨年同様の妊産婦支援を継続し、シリア国内のアルホールキャンプへの緊急支援も実施



イラク-シリア国境にあるアルホール難民キャンプ

しました。9月にはシリア国内を視察し、バイルーニ病院と今後の支援に関する話し合いを持ちました。

こんな活動をしました

▶イラクのダラシャランでは、シリア難民キャンプの支援として葉酸の配布、無乳糖粉ミルクの配布を実施しました。

▶ヨルダンでは、シリア支援団体「サダーカ」の協力を得て、イルビッドのリハビリセンターでの支援を継続しました。これまでに支援してきた障害者のうち、10家族を訪問し、食糧支援をすることができました。

▶シリア国内では、アルホールキャンプにて医薬品5000ドル分の援助をしました。

▶今後、必要とされる活動の可能性を調査するためにダマスカスのバイルーニ病院を視察し、情報交換を行いました。

▶2017年にISから解放されたモスルでは、長く止まっていたイブン・アルアシル病院での支援を再開しました。モスル緊急支援では、リコー社会貢献クラブ様よりご支援をいただきました。

一般の粉ミルクだとお腹を壊してしまう赤ちゃんのために乳糖の入っていないミルクを配っているんだ。



妊娠初期は赤ちゃんの脳・神経・心臓を形成するために、たくさんの葉酸が必要なんだ。だから、妊婦さんに葉酸を配っているよ。



2014年にダラシャラン・シリア難民キャンプで生まれたシドラは、生まれた時から心臓に穴が開いていました。2018年にドホークの病院で手術を受ける予定でしたが、医師の診断は、「心臓に空いた穴が、自然に塞がってくれる可能性がまだ少しでも残っている限り、手術はもう少し待ちたい。定期的に心臓の状態を見ていき、すぐ手術が必要と判断した際に、手術に踏み切る」というものでした。手術自体がシドラにとって命を脅かすものであるため、医師達の慎重な判断がなされました。現在も経過観察中です。

JIM-NETでは、これからもシドラのサポートをしていきます。



福島支援

原発事故から8年が経過し、活動指針を、1) 福島の将来は、福島の人たちが決める 2) 東京の責任を果たす 3) 世界に向けた発信として、以下の活動をしました。

- ①アースウォーカーズ：宮崎や山形でのリフレッシュキャンプに 922,055 円の支援
- ②アースウォーカーズ：自然エネルギーを学ぶためのドイツスタディ・ツアーに、高校生 1 名分の旅費 25 万円の支援
- ③日本チェルノブイリ連帯基金（JCF）：郡山の子どもたちを松本で保養に 98,720 円の支援（合計 8 名・5 歳児とその保護者）



福島の子どもたちの保養キャンプ@宮崎

- ④びわこ 1・2・3 キャンプ（3 月 23 ～ 4 月 6 日）：10 万円の支援

- ⑤福島 30 年プロジェクト：24 検体を測定し、データを公表するに、液体窒素を含め 79,728 円の支援

- ⑥心援隊：大阪での保養に 10 万円の支援（親子 2 名ずつ合計 6 名）

- ⑦ 311 甲状腺がん基金：がん患者一人につき 50 万円の支援（10 万円 x 5 名分）



ドイツ・スタディツアーに参加した福島の高校生たち

アドボカシー

- ①サカベコを通して、難民の現状や福島の状況を伝えました。

サカベコとは、福島県会津地方の伝統玩具赤べこに、サッカーのユニフォームをペイントした JIM-NET オリジナルのものです。イラクやシリアの子どもたちにペイントしてもらったものや、福島ユナイテッド FC の選手にペイントしてもらったものもあります。以下 7 か所で展示やワークショップを行いました。

聖心女子大 BE*hive、全労災スペース・ゼロ、練馬ココネリ、早稲田大学ギャラリー、つくば市民ギャラリー、目黒区民ギャラリー。

- ②福島の教訓に絡めた政策提言として、ブックレット『福島 10 の教訓』のアラブ語版を用いたワークショップを開催する

ための調査を行いました。現地で原発事情調査を行いました。が、現状開催が難しいことが判明し、企画開催を見送りました。

- ③日立製作所が建設予定であったウェールズ原発輸出反対（『誰のためにもならない日立・英ウィルヴァ原発建設計画を中止してください。』）呼びかけに協力しました。

- ④辺野古新基地建設に反対する沖縄県民投票の結果を尊重することを求める声明に賛同しました。

- ⑤シリア・イドリブ県にて懸念される軍事攻撃に際し、停戦・和平を要請しました。

- ⑥国際小児がんデーを広める活動をしました。

缶バッチを作成し、販売しました。小児がんについて知ってもらえるよう、絵画展も行いました。





広報・イベント

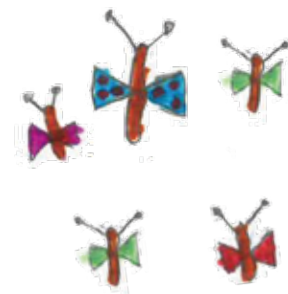
JIM-NET 便りを年間 4 回発行しました。

【主なイベント】

- 4 月 イラク NOW! ★ゲスト：伊藤めぐみ
- 6 月 中東の難民と W 杯展@ BE*hive
「シリア難民としてイラクで生きる」
★出演：リーム・アッバス、酒井啓子、青山弘之
- 8 月 「イラク戦争 15 年展」
- 10 月 「戦争と平和 NOW!」
★ゲスト：ガビ・ジャマル、井筒高雄
- 11 月 チョコ募金キックオフイベント
「戦場のたんぽぽ Give Peace a Chance!」
★ゲスト：いちよ・きよ・やぎりんバンド、
荻野仁子、相澤恭行、湯川れい子、斉藤とも子
- 12 月 Arabic Chanoma
★出演：サヘル・ローズ、安田菜津紀、鈴木雄介、
アーヤ藍
- 2 月 ギャラリー日比谷にて「戦場のタンポポ展」



リーム・アッバス（JIM-NET
アルビル事務所スタッフ）が
来日



チョコ募金キックオフ
のゲスト「いちよ・きよ・
やぎりんバンド」の
心温まる演奏



左からアーヤ藍さん、斉藤亮平（JIM-NET）、安田菜津紀さん、
サヘル・ローズさん、鈴木雄介さん

チョコ募金



毎年冬に、1 口 550 円ご寄付してくださった方にチョコレートをお礼としてプレゼントしている募金キャンペーンです。

2018 年度は、米軍の空爆と、IS（イスラム国）の放火で焼け焦げたモスルの小児がん病院に、ひっそりと咲いていたたんぽぽをヒントに、4 人の子どもたちにたんぽぽの絵を描

いてもらいました。4 人の子どもたちの中には、病気を克服し、元気になったにも関わらず、引きこもりがちになってしまった子もいます。そんな子どもたちが、笑顔で社会に戻るような支援も行いました。

温かいご支援してくださった皆様に、心から感謝申し上げます。

①テーマ：『戦場のたんぽぽ』

②取組個数：六花亭様の協力により、15 万個

③実施期間：2018 年 11 月 15 日～2019 年 2 月 5 日まで

◆チョコ募金運営協力（敬称略）

六花亭製菓株式会社 / 古茂田工業株式会社 / 有限会社山猫印刷所 / 社会福祉法人 川崎市社会事業団 KFJ 多摩はなみずき / 協働組合 JASMEQ / 柳原出版株式会社 / SEO 株式会社 / Studio Impala



2019年度事業計画

海外事業

★イラク小児がん支援

1. イラク国内4か所5病院への医薬品支援を継続。

2. トレーニング

●看護記録導入

●フローサイトメトリーを用いた診断技術の向上を図る。

●エジプト研修は実施をするか検討。

3. JIM-NET ハウス（小児がん総合支援施設）

①ナナカリ病院内の敷地に完成し、本年度から始動。運営を最重点項目とし、中身を充実させる。

②闘病中のサバイバーの子どもたちを対象に、教育プログラムを実践。ボランティア教員が派遣され、治療のため遅れてしまった学習をサポートする。

③ボランティア教員によるアートクラスを実践。美術や音楽などを通し、闘病中やサバイバーの子どもたちに楽しい時間を提供する。

④ピアサポート

⑤スレイマニアに新しく小児がん総合支援施設（JIM-NET ハウス2）を建設し、来年度の竣工を目指す。

4. 地域に根差したがん支援体制の強化

①学校での啓発運動を、小学校へも展開する。

②現地 NGO や地域ボランティア団体との協働

5. 貧困患者支援を継続

6. 最先端技術の導入

JCF（日本チェルノブイリ連帯基金）との協議を継続していく。

7. ヨルダンにおけるがん支援

シリア難民を支援してきたが、一部をシリア国内支援とする。

★緊急支援

1. シリア難民支援

①イラクのダラシャクラン・シリア難民キャンプで母子支援を継続する。

②ヨルダンにおけるシリア難民支援については、引き続きモニタリングを行い、必要に応じて医療費等を支援する。

2. シリア国内では、緊急支援を必要に応じて行う。

3. イラク国内避難民については、情報を収集し、必要に応じて支援する。

国内事業

★福島支援

1. 福島基金の運用

支援先に関しては、今後議論を重ねて決定する。

2. 福島の教訓を世界に伝える

今後の方針について、検討を重ねていく。

★アドボカシー

①福島の教訓に絡めた政策提言

②武力を用いない平和に向けたアドボカシーとして引き続き、NGO 非戦ネット、イラク戦争の検証を求めるネットワーク、シリア和平ネットワークに協力する。

③ SDGs、UHC に関する政策提言を行う。

★広報・イベント

1. 広報

新しい JIM-NET ハウスのオープンに合わせ、利用者さんたちの様子のレポート、施設の内部、外観、機能、サービス内容の見える化を図り、SNS などで現地の様子を発信し、支援につなげる。

2. イベント

気軽に参加したくなるイベント（お料理で中東を知ろう！ / 羊ぐるぐるワークショップなど）を開催し、垣根の低いイベントを企画、実施する。

★チョコ募金

1. テーマ・デザイン

15 回目のアニバーサリーとなるため、これまで伝えてきたテーマを振り返り、皆さんに過去のデザインの中から人気投票で選んでいただいた絵を復刻する。

2. 実施機関と取組回数

取り組み回数は、14 万回として、11 月中頃から受付を開始する。



2018年度決算

※活動計算書

● 2018年4月1日～2019年3月31日

I. 経常収益 (単位: 円)	
科目	決算額
受取会費	(正会員受取会費)
	75,000
	(賛助会員受取会費)
	10,000
	(サポーター受取会費)
	7,617,000
	合計
	7,702,000
受取寄附金	(受取寄付金)
	36,718,938
	(チョコ募金)
	96,710,625
	合計
	133,429,563
受取助成金等	(受取補助金)
	57,292,685
	(受取助成金)
	6,267,186
	合計
	63,559,871
事業収益	0
その他収益	(受取講演料等)
	122,040
	(雑収入)
	559,074
	(為替差益)
	583,826
	(受取利息)
	35,063
	合計
	1,300,003
経常収益計	205,991,437

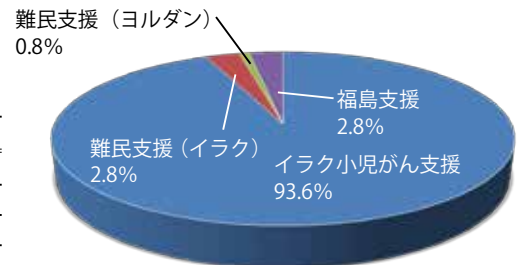
※貸借対照表

● 2019年3月31日現在

資産の部 (単位: 円)		負債の部 (単位: 円)	
科目	金額	科目	金額
1. 流動資産		1. 流動負債	
現金預金	194,686,170	未払金	5,655,574
未収入金	11,004,040	未払費用	958,148
貯蔵品	7,770	前受金	0
前渡金	42,370	預り金	347,056
前払費用	352,970	流動負債合計	6,960,778
仮払金	0	2. 固定負債	0
流動資産合計	206,093,320	負債合計	6,960,778
2. 固定資産		正味財産の部 (単位: 円)	
什器備品	317,302	科目	金額
敷金	624,960	福島基金	5,229,531
固定資産合計	942,262	緊急時対応準備金	9,000,000
資産合計	207,035,582	前期繰越正味財産残額	153,367,229
		当期正味財産増減額	32,478,044
		正味財産合計	200,074,804
		負債及び正味財産合計	207,035,582

II. 経常費用 / III. 経常外収益 / IV. 経常外費用 (単位: 円)	
科目	決算額
事業費	人件費 (給与手当、通勤費他)
	18,334,980
	プロジェクト費
	106,928,445
	旅費交通費
	7,214,116
その他経費	印刷広告宣伝費
	4,174,778
	寄付金原価 (チョコ製造費他)
	26,867,597
	その他費用 (水道光熱費、家賃他)
	5,173,393
事業費計	168,693,309
管理費	人件費 (給与手当、通勤費他)
	13,184,184
	その他経費 (事務所家賃他)
	4,139,107
管理費計	17,323,291
経常費用計	186,016,600
経常外収益計	13,828,329
経常外費用計	1,325,122
当期正味財産増減額	32,478,044

各支援事業の費用の割合 (経常費用)



※監査報告書

監査報告書 INDEPENDENT AUDITOR'S REPORT	
特定非営利活動法人 JIM-NET の 2018 年度決算 (2018 年 4 月 1 日～2019 年 3 月 31 日) について、監査の結果、事業は適正に実施され、また活動計算書および貸借対照表は、一般に公正妥当と認められる会計原則に基づいて作成されていることを認める。 I have audited the financial statement of NPO JIM-NET as of March 2019 and acknowledged that revenue and expenditures for the Fiscal Year 2018 in the activity statement and balance sheet were based on generally accepted accounting principles.	
日付:	2019年6月15日
監事:	村山文彦

2019年度予算

※活動予算書

● 2019年4月1日～2020年3月31日

I. 経常収益 (単位: 円)	
科目	予算額
受取会費	(正会員受取会費)
	70,000
	(賛助会員受取会費)
	10,000
	(サポーター受取会費)
	6,000,000
	合計
	6,080,000
受取寄附金	(受取寄付金)
	33,880,000
	(チョコ募金)
	81,800,000
	合計
	115,680,000
受取助成金等	(受取補助金)
	79,088,000
	(受取助成金)
	2,430,000
	合計
	81,518,000
その他収益	合計
	50,000
経常収益計	203,328,000

II. 経常費用 (単位: 円)	
科目	予算額
事業費	人件費 (給与手当、通勤費他)
	20,787,000
	プロジェクト物資費
	39,635,000
	ワークショップ等開催費
	1,764,000
その他経費	日本 NGO 連携無償資金協力事業費
	78,788,000
	寄付金原価 (チョコ製造費他)
	20,520,000
	その他費用 (水道光熱費、通信費他)
	20,212,000
事業費計	181,706,000
管理費	人件費 (給与手当、通勤費他)
	11,178,000
	その他経費 (事務所家賃他)
	9,270,000
管理費計	20,448,000
経常費用計	202,154,000
経常収支差額	1,174,000

● JIM-NET 参加団体 (50 音順)

【アラブの子どもとなかよくする会】

1991 年の湾岸戦争後からアラブ地域、とくにイラクの子どもたちへの支援活動を開始、1993 年に会を設立。
がんの子どもたちへの医療支援のほか、クラフト作り (アフーク・プロジェクト) を通じて患者家族の生活支援を行っています。

【カタログハウス基金】

カタログ雑誌「通販生活」では、信頼できる暮らしの道具を厳選して販売するとともに、戦争や災害に苦しむ子どもたちの救援活動に取り組んでいます。

【子どもの平和と生存のための童話館基金】

童話館グループは、長崎市にある絵本・子どもの本を専門にあつかう会社です。2001 年、童話館の創業 20 周年記念として、「子どもの平和と生存のための童話館基金」が設立されました。

【「サダコ」・虹基金】

原爆の子の像のモデル佐々木禎子さんと同じ病院で過ごした故・大倉記代さんが、絵本『思い出のサダコ』出版をきっかけに 2006 年 3 月に設立した基金です。

【スマイルこどもクリニック】

小児救急施設の不足が深刻な社会問題となる中、2001 年に開院された 24 時間診療の小児クリニックです。イラク難民キャンプでの健康診断、子どもたちの手術費の援助など様々な支援を行ってきました。

【日本国際ボランティアセンター (JVC)】

1980 年、カンボジアやラオス、ベトナムでたくさんの難民が生まれた際、タイの難民キャンプに駆けつけた日本の若者たちにより誕生しました。現在、アジア、アフリカ、中東、そして日本の震災被災地で活動しています。

【日本チェルノブイリ連帯基金 (JCF)】

1991 年 1 月、チェルノブイリ原子力発電所事故被災者への医療支援を目的として設立された認定 NPO 法人です。2004 年からはイラクの小児白血病・小児がんの子どもたちへの支援も行なっています。

● 補助金・助成金・ファンドレイジングサービス・ご寄付・チョコ募金ご協力者様 (敬称略)

◆ 補助金・助成金・ファンドレイジングサービス

- ・補助金：外務省 日本 NGO 連携無償資金協力
- ・助成金：生活協同組合パルシステム東京 平和カンパ／リコー社会貢献クラブ FreeWill
日本労働組合総連合会 愛のカンパ

◆ ファンドレイジングサービス

gooddo 株式会社／ソフトバンク株式会社 (つながる募金)／TM コミュニケーションサービス株式会社 (お宝エイド)／株式会社 STYZ (Syncable)／株式会社ブギ (古本チャリティ募金)

◆ ご支援いただいた企業・団体

誌面の都合上、大口のご寄付をいただいた企業・団体を掲載しております。その他にもたくさんのご寄付をいただきました。厚く御礼申し上げます。

・チョコ募金 11,326 件

パルシステム生活協同組合連合会／(特非) アースウォーカーズ／ビア&カフェ BERG／アルソア本社株式会社／大王製紙株式会社／札幌イラクチョコ募金の会／自然派くらぶ生活協同組合／聖隷福祉事業団労働組合／旭川イラクチョコ募金の会／カタログハウスの店 東京店・大阪店／認定 NPO 法人 WE21 ジャパンこうほく／子どもの平和と生存のための童話館基金／ゴスペルスパークル／(特非) WE21 ジャパン青葉

・一般寄付 1,501 件

子どもの平和と生存のための童話館基金／株式会社カタログハウス／公益財団法人 毎日新聞大阪社会事業団／川口液化ケミカル株式会社／ISS 会／明日の力プロジェクト／神野美伽／(特非) WE21 ジャパン青葉／トゥーマッチトーキョーズ／全国友の会／革工房パロール／有限会社エリコ通信社／株式会社 藤原電子工業／認定 NPO 法人 WE21 ジャパンよこすか／1000PEACE

2018 年度年次報告書

2019 年 7 月 30 日発行

特定非営利活動法人 JIM-NET (ジムネット)

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場 4-4-11 内藤ビル 2C

電話：03-6228-0746 E-mail：info-jim@jim-net.net

寄付金振込先：郵便振替口座 00540 - 2 - 94945 加入者名 日本イラク医療ネット

ゆうちょ銀行 金融機関コード 9900 店番 059

預金種目 当座 店名 ○五九店 (○は漢数字のゼロ) 口座番号 0094945

<http://jim-net.org/>



【表紙】

2019 チョコ「戦場のたんぽぽ」を描いてくれた子どもたち。

左上：ラワン (左) とワサン医師

左下：ローリン

右上：アブデルアジーズ

右中：ルナーヒー

右下：完成した JIM-NET ハウス

